

先輩移住者インタビュー

農業新規就農者 ^{のむら}野村 ^{よしのり}嘉則さん(44歳)、^{みずき}美珠季さん(39歳) (R2.2月現在)

(丹生川地域へ移住)

H29年に東京から移住し、市内の農家で2年間研修を受けました。H31年の2月から丹生川地区に居を構え、ご夫婦でトマト栽培に勤めています。

Q、移住したきっかけは？

嘉則さん：もともと農業に興味があって、自分でも色々調べていました。そんな中、東京で開催された『農業人フェア』に行ってみました。たくさんの自治体ブースを回りましたが、自分が持っていた疑問に全て答えてくれたのが高山市のブースだったんです。その時にここなら信頼できるなと思ったのが大きなきっかけです。また、研修先の師匠（飛騨高山の名匠に認定された村上喜作さん）の存在も大きいです。この方がいなければここまでできなかったし、研修を受けられるというタイミングにも恵まれて、のびのびと学ばせてもらいました。師匠のもとで同じように研修を受けた先輩方も集まり、年に何回かバーベキューや飲み会をしています。また自分が京都で生まれ育って、岐阜県が東京と京都の間にあるので、どちらに行くにもいいかなというのもありました（笑）。

美珠季さん：東京にいる時は、市民農園を借りて野菜を育てていました。それが楽しくて、農業を仕事にしたいと思うようになってきました。高山は水もおいしく、本当に静かでいい場所です。夜はフクロウやキツネの鳴き声が聞こえるんですよ。以前の生活ではなかった静けさにストレスレスですね。

Q、移住して良かったこと、大変だったことは？

嘉則さん：本格的な農業は初めてだったので、すべてがゼロからの出発でした。色々な野菜がありましたが、夫婦2人でやるにはトマトがいいとのアドバイスから決めました。丹生川地域はトマト農家も多いので入りやすかったですね。30aの畑で大玉トマトを作っていますが、思っていた以上にやる事が多くて大変です。でも自宅から車で2~3分のところに畑があり何かあってもすぐ行けるし、師匠も見に来てアドバイスをしてくださるので助かっています。近所にトマトについて気軽に聞ける人がいるのもありがたいですね。研修を受けている時に、市で家と畑をセットで貸し出したいという人とマッチングしてくださって今の場所を見つけることができたので助かりました。

美珠季さん：「田舎暮らし」ということで夫婦2人構えてきたのですが、実際に住んでみたら地域の方が気を遣ってくださりちょっと拍子抜けしました（笑）。私たちともう1組の家族がこの地域に移住したということで、町内会で歓迎会を開いてくださって嬉しかったですね。ありがたいことに普段でも近所の方が料理を持ってきてくれたり、ランチに誘ってくれたりします。でも突然来られることが多いので、家にいる時も服装は気が抜けません（笑）。また、師匠の奥様に誘ってもらって、この地域の女性で構成されている「たんぼぼコーラス」というコーラスグループにも参加するようになりました。こちらはメンバー絶賛募集中です（笑）。町内会やイベントには参加するようにしています。冠婚葬祭のルールは東京とは違うもので最初は戸惑いでしたが、今はご近所の方々に聞きながら覚えています。濃いお付き合いですが、結構楽しんでいますね。

Q、高山のおすすめスポットは？

「道の駅」を巡るのが好きで、実はスタンプも集めています（笑）。高山に移ってからは研修や就農で忙しく、なかなかゆっくり休める時間が取れませんでした。夏秋の収穫のピークが終わったので「道の駅」巡りを再開したいと思っています。岐阜県内は道が走りやすいです。飛騨地域の「道の駅」は全部回ったので、今度は美濃地方や隣県に行きたいですね。

Q、これからの夢は？

食べておいしいと思ってもらえるトマト、安全なトマトを作りたいです。農協に出荷するので、消費者の方には自分が作ったものと分からないかもしれませんが、みなさんにおいしく食べてもらうためにたくさん作っていきたいですね。

あと、今住んでいるところが借家なので、将来的にはマイホームをこの丹生川地区で建てたいです。

Q、高山へ移住を検討されている方へのアドバイス！

『郷に入れば郷に従え』ですね。その地域に住むのであればその地域のルールを守ることが大事です。また人のつながりを大事にすることも心掛けています。挨拶をする、お礼をする、基本的なことですが、これをきちんとやることで地域に受け入れられていくと思います。仕事は苦しい時もありますが、楽しんでやるようにしています。「移住」は大きな決断が必要ですが、あまり重く考えず、まずは一度この地域を見に来てほしいと思います。私たちが住んでいる丹生川地域はオープンなところでおススメですよ。

